

2015年3月期第2四半期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2014年10月31日（金） 15：00～15：45

場所：ベルサール八重洲

お断り：この要旨は、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会で話したことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

Q. 上期の電子産業向け装置の受注高のうち、半導体向け、液晶向け、その他の比率の実績を教えてください。

A. 半導体 50%、液晶 20%、その他 30%。

Q. 上期に受注した台湾と中国の案件は期初計画に織り込んでいなかったと考えていいか。

A. 中国の案件は計画通り受注したものである。台湾の案件は受注できる確率がそれほど高くなかったが受注できたものである。

Q. アジア向け売上高の通期計画が下方修正された要因を教えてください。

A. 中国および韓国における水処理装置事業の子会社の売上高を下方修正した。ただ全体の事業を考えれば、見通しがそれほど悪化しているわけではない。

Q. 水処理装置の計画は下期だけを見ると受注高・売上高ともに下方修正されているが、水処理装置全体の下期の見方を教えてください。

A. 国内については、超純水供給事業以外は顧客の設備投資が低調でハードは依然厳しい状況だが、期初の計画どおりである。海外については、中国と韓国の子会社で若干下方修正しているが、それ以外は比較的堅調であり大きな変化はない。今後も予定された案件を着実に受注していく。

Q. 買収を発表したBK Giulini（以下BKG）社の対象事業について、2013年度の売上高が約240億円とのことだが、2014年度と2015年度の売上高の見方を教えてください。

A. BKG社は1-12月決算なので2014年度はもうすぐ終了するが、2013年度と大きな変化はない。クロージングを2014年12月に予定しており、2014年度は当社連結業績に買収は影響しない。2015年度から連結業績に寄与してくるが、まずBKG社として運営し、融合を図り、その後シナジーを実現していく。したがって2015年度はまだ大きなシナジーが出ることを見込んでいない。

Q. BKG社の買収対象事業について、事業や市場の伸び率を聞かせてほしい。

A. 過去のBKG社の動きを見ると3%ぐらいの成長をしてきている。欧州が主たる事業であるので、欧州市場の成長率とリンクするが、シナジーを出すことで市場の伸び率以上の成長を達成していきたい。

Q. BKG社の買収対象事業の顧客の業種や主要取引先を教えてください。

A. BKG社の取引先について個別具体名はコメントを差し控えさせていただきたい。顧客の市場や地域については、まず水処理薬品事業では、石油化学、鉄鋼、インフラ、電力など歴史あるベーシックな市場にバランスの良い顧客基盤を築いている。地域的には

ドイツ 25%、フランス 20%など、西欧での売上高が半分近くを占める。次に紙プロセス薬品では、包装紙・板紙が 50%弱、ティッシュが 20%、特殊紙 15%を占め、これらの市場において競争力のある特徴的な商品を持っている。地域的にはドイツが 56%、西欧 11%など欧州が中心となっている。最後にアルミナ化合物は、紙プロセス薬品の原材料としての用途が 40%、トンネル建設時の固化剤など土木向けが 30%となっている。地域的には、ドイツ 63%、EU31%と欧州中心である。

- Q. BKG 社の買収対象事業には中国での取引もあると聞かすがどのような分野か聞かせてほしい。
- A. 水処理薬品が中心で、あとは紙プロセス薬品で若干ある程度である。水処理薬品では中国での売上高が約 10%ある。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。